

不易と流行が融合した小中一貫教育で大きく羽ばたく子どもを育む



英語の授業では、電子黒板も活用して、子どもたちの意欲を上手に引き出している。また、市内の小・中学校の英語担当教員による英語教材開発委員会が、市内の名所・旧跡や行事などを英語で紹介した、かるたとランプを製作。地元のよさを英語で発信する力をつけてほしいという思いが込められている。



「これからの高岡の教育を考える懇談会」では、地元の教育界・経済界に従事する人や地元出身の政府関係者、保護者などを招き、地域・日本・世界の視点から今後の教育のあり方を討論した。



全市立学校の小学5・6年生、中学1年生を対象に行われている「ものづくり・デザイン科」では、高岡の漆器や銅器について学ぶ。また、職人から直接指導を受けながら自分でデザインし、制作した作品は、市が主催する展覧会で一般公開される。卒業後も作品を大切に保管している子どもが多いという。ペン皿やブローチなどの題材は学校ごとに毎年検討されるが、中学校区内で連携し、3年間で重複しないよう調整している。



富山県高岡市では、2006年度から、地元の工房や工芸技術者などと連携し、伝統工芸を学び、作品を制作する「ものづくり・デザイン科」の活動を、全市立学校の小学5・6年生、中学1年生を対象に行っている。

400年以上受け継がれている漆器や銅器などについて学ぶことで、地域理解が深まるとともに、作品の制作を通して一人ひとりのよさに光があたり、自己肯定感が育まれるという成果も出ている。また、地域との信頼関係が築かれ、保護者からの評価も高い。今後は、作品の紹介文を英語で書いて、ウェブで世界に発信したり、作品のデザインをパソコンで描いたりといった新しい要素を加えた指導の深化を構想している。

そうした強みを土台に、小中一貫教育の推進にも着手した。米谷和也教育長は、そのねらいを次のように語る。

「幼稚園・保育園から大学院までの連続した学びの充実を図るため、小・中が連携し、世界を視野に入れた義務教育段階の学びを実現する必要があると考えています」

まずは英語教育やICT教育で小中連携を進めていく。例えば、英語教育では、現在、ALT、JTE*、英語専科教員を各小学校にローテーションで配置し、授業は担任とのチーム・ティーチングで行っている。これに加えて、中学校の英語科教員の乗り入れ授業も行えるようにし、小学校での英語教育の向上と、小・中のスムーズな接続を図る。

「『伝統は革新の連続』と言われてるように、学校教育も不易を継承しつつ、時代に応じた挑戦が必要です。地域とともに、我々の予想を超えて成長していく子どもたちを育てていきたいと思います」(米谷教育長)



教育長
米谷和也

こめたに・かずや

富山県公立学校教員として小学校、中学校、高校に勤務。富山県教育委員会、富山県立高岡高校校長等を経て、現職。

高岡市プロフィール

2005年、旧高岡市、旧福岡町が合併し誕生。豊かな歴史・文化資産やものづくりの伝統に支えられた歴史都市。2016年、「高岡御車山祭」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことから5月1日を「高岡の歴史文化に親しむ日」に制定。

人口 17万3454人 面積 209.57km²

公立学校数 小学校26校、中学校12校、特別支援学校1校

児童生徒数 1万1992人

電話 0766-20-1443

URL <https://www.city.takaoka.toyama.jp/kosodate/iinnkai/index.html>



表紙の写真は、高岡市立能町小学校の5年生の外国語活動の様子です。

* Japanese Teacher of English の略。日本人英語指導者のこと。